

1

「食事を考える vol.5」を用いたサルコペニア対策



関西電力病院
田中永昭

日本糖尿病協会では、糖尿病教育のための「患者参加型療養支援DVD」（運動療法全5巻、フットケア全3巻、食事療法全5巻）を制作しています。このシリーズは「なるほど」「楽しい」「やってみよう」をコンセプトとしており、待合室での放映、糖尿病教室・講演・市民講座にも活用でき、自宅でも継続して視聴できます。最初に田中永昭氏は食事療法の最新刊「糖尿病患者さんのための食事を考える vol.5」を用いたサルコペニア対策について解説しました【図】。

次に、赤司朋之氏は福岡県南部における筑後糖尿病療養指導士会の取り組みを紹介しました。同会で

楽しもう! 糖尿病療養指導 ～地域全体でのスキルアップを目指して～



医療法人社団シマダ 嶋田病院
赤司朋之

は、地域全体でのスキルアップを目指して定期的に研修会を開催しています。毎回、リーフレット作成、施設内や自治体での糖尿病事業計画などについて企画・立案する宿題【表】が与えられ、「妄想」も交えて活発に議論し、切磋琢磨しているということです。

図 加齢に伴う握力の変化

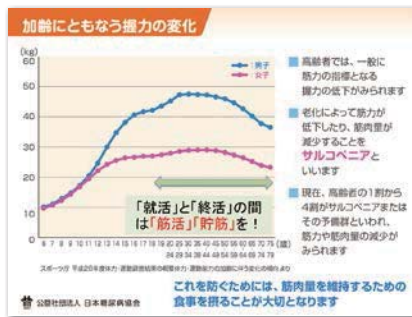


表 宿題「糖尿病事業立案計画」の妄想例

妄想の宿題2. 自治体での取り組み(1)

1. スポーツジム設立
2. 糖尿病患者だけのシェアハウス
3. DMカフェ
4. 医療スタッフがいる糖尿病施設 (買やアパート)
5. 朝活計画 (早朝にウォーキングや体操のイベント)
6. 運動施設を作る (高齢者も利用可能な施設で介護の医療費抑制)
7. 透析予防的を兼ねた運動参加の呼びかけ運動
8. コンビニやスーパーなどに健康管理施設設置
9. 関係や医療機関と一体となったDM重症化予防計画 (治療費一部免除を利用)
10. 地域健康指導員の育成計画
 1. 糖尿病に関する健康イベントを開催し、市民が参加したらポイント付与。
 2. そのポイントで買い物や行政サービス
 3. 相談所つき健康レストラン
 4. 腎臓2期に絞った指導計画
 5. 透析ハイリスクを中心とした健診後の徹底介入
 6. DM腎症を対象とした調理講習
 7. DM腎症をターゲットに透析施設への血糖測定器設置計画
 8. 痛みを感じない血糖測定器の開発、自治体主導の診療所糖尿病教室
 9. 糖尿病患者教育のための施設が出来る施設を作る
 10. 糖尿病患者教育の宿泊施設を作る
20. ドラッグストアに患者発見のための糖尿病連携カードの発行

2

糖尿病医療連携

～横断的診療班の活動から災害時の備えまで～



座長
中村学園大学
大部正代



演者
佐賀大学医学部附属病院
安西慶三

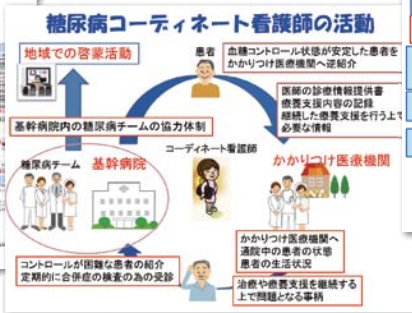
医療連携の様々な形として、施設内、地域、広域の3つの視点で情報を提供しました。

院内連携では、佐賀大学病院の事例として、各職種からなる糖尿病診療班による「インスリン治療ガイド」の作成や、診療科訪問研修会での横断型コンサルテーションを紹介。

地域連携では、佐賀県、佐賀大学病院、基幹病院とかかりつけ医が協働する「糖尿病コーディネート看護師事業」を取り上げました。糖尿病専門医が少なく糖尿病腎症によ

る透析導入率が高い佐賀県で、現在50人が連携の橋渡し役として施設間の情報共有やスタッフ教育、地域啓発に従事しています。

広域連携としては、熊本地震発生時の医療支援活動をもとに構築された糖尿病医療支援チーム (DiaMAT) を紹介しました。自然災害が多発する現在、糖尿病医療も平時のみならず非常時の連携への準備が急務となっています。



日付	活動内容
4/14 (木) 21:26	1. 入院患者および職員的安全確保と緊急トリアージ体制の確立(熊本大学代内科)
4/16 (土) 1:25	2. 入院患者および職員的安全確保と緊急トリアージ体制の維持と運営
4/18 (月) 発表5日	3. 病院機能の回復と熊本県大震災支援に向け糖尿病学会および糖尿病協会と連携を強化(熊本県糖尿病対策推進会議)
4/22 (土) 発表10日	4. 糖尿病専用相談窓口開設
4/23 (日) 発表10日	5. 熊本糖尿病支援チーム(K-DAT)を益城町へ派遣
4/27 (金) 発表14日	6. 糖尿病療養指導士 (CDE)、糖尿病看護認定看護師へ協力要請 熊本県糖尿病支援チーム 立ち上げ (佐賀大学医学部 肝臓、糖尿病・内分泌内科)

5月3日より派遣開始：発災20日

医療者教育DVD 全巻完成報告

日本糖尿病協会が2014年から制作を始めた学習支援DVDシリーズ「チームで考える! 糖尿病療養指導・支援のポイント」(協力:アステラス製薬株式会社)が、今年7月、最終巻となる第5巻をもって完結しました。

第5巻は「実践編」と題し、特徴的な地域の療養指導活動として3つの事例を紹介し、視聴者の日々の活動に役立ててもらおうという内容です。事例の合間には、地域糖尿病療養指導士(CDEL)の団体紹介コーナーも設けられました。

DVDは当初、医療機関内での教材として視聴されること

座長



佐賀大学医学部附属病院
安西慶三

演者



かなもり内科
金森晃

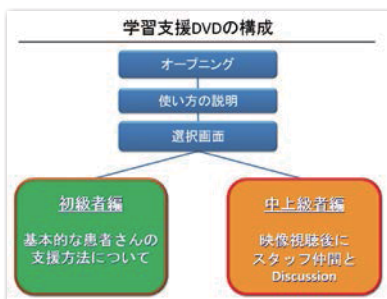
が多かったのですが、巻を重ねるうちに、CDELの学習会などでも活用されるようになり、「机上の学習より効果的に知識の定着を図ることができる」と好評を得ています。

—糖尿病学習支援DVD—

「チームで考える! 糖尿病療養指導・支援のポイント」

- Vol.1 支援・面談の基本編
- Vol.2 食事・運動のアドバイス編
- Vol.3 薬物療法の支援編
- Vol.4 合併症編
- Vol.5 実践編

本DVDシリーズの入手は、アステラス製薬の医薬情報担当者にお問い合わせください。



Sweet! Smile! SMBG! ~SMBGとQOLに関する全国実態調査報告~

SMBG実施の糖尿病患者さんおよび主治医に対して、SMBGの有効活用に関する大規模調査中の結果を報告しました。

SMBGは、糖尿病患者さんが自身の血糖コントロール状態を把握することが可能になる一方、測定に伴う痛みや煩雑さが問題とされます。SMBGを苦痛に感じる糖尿病患者さんほど、ネガティブな気分状態にあり、QOLが低下し、HbA1cも高値を示しました。また、糖尿病患者さんがSMBGを苦痛に感じるのは、測定回数の多寡ではなく、

座長



関西電力医学研究所/
京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科
矢部大介

演者



関西電力医学研究所/
関西電力病院 糖尿病・代謝・内分泌センター
田中永昭

SMBGを行うことの重要性を十分に理解できていないことが原因である可能性が示唆されました。

そして、医療従事者がSMBGの結果を診察ごとに確認し、適切なアドバイスを行うことが重要であると結びました。



SMALL GROUP DISCUSSION
6

糖尿病カンバセーション・マップ™

KEY WORD

- ・ファシリテーター
- ・コミュニケーション
- ・話を聞く



二田哲博クリニック
下野大



小内医院
小内裕

本セッションは、通常のカンバセーション・マップファシリテータートレーニングの体験版という位置付けで実施しました。参加者はマップの未経験者と経験者が混在していたため、9つのグループに分かれて、まずはトレーナーがファシリテーターとなり、参加者は患者さんやご家族に扮して「糖尿病とともに歩む」のマップを体験しました。その後、参加者が順番にファシリテーター役を務め、皆さん四苦八苦しながらも、トレーナーの助言を得ながら、進行役として場を作る努力をしておられました。

グループワーク終了後は、エキスパートトレーナーで臨床心理士の東山弘子先生が、患者さんのグループワークを進行する上でのコミュニケーションのポイントをわかりやすく解説してくださいました。

ディスカッションではこんな意見が出ました

■マップ未経験者

- ・患者さんの気持ちを聞けるアイテムになると思った。
- ・患者さんの意見を聞きながら進行するのは難しかったが、予測しない反応などもあり、楽しかった。
- ・型に当てはめる指導から抜け出さないといけないと思った。
- ・1人ひとりの気づきを見つけるツールだと思う。
- ・医療者はいい指導的になりやすいが、ファシリテーター役に徹することが大切。

■マップ経験者

- ・体当たりで患者さんの心情を汲み取りつつ、やっていきたい。
- ・マップに描かれた内容にこだわりすぎず、話を進めていこうと思った。
- ・色々な進行方法があると感じ、自分の杓子定規なやり方を反省した。
- ・精神科の患者さんを対象にマップを行っているが、精神科でも十分に使えるツールだと思う。



SMALL GROUP DISCUSSION
14

糖尿病療養指導カードシステム

KEY WORD

- ・糖尿病療養指導カードシステム
- ・経験の共有
- ・周囲の理解



那珂記念クリニック
道口佐多子



佐賀大学医学部
附属病院
永湊美樹



那珂記念クリニック
遅野井健



佐賀大学医学部
附属病院
安西慶三

カードシステムのSGDは、カードシステム講習会の修了者を対象に、10グループのワールドカフェ形式で行われました。

はじめに、所属施設でカードシステムを導入している参加者と、導入に困難を感じている参加者のグループに分かれ、それぞれ問題点を把握しました。その後、混在グループになり、情報交換を行ったうえで、再度カードの使い方を学習しました。

最後に最初のグループに戻り、施設でカードシステムの導入または活用のためにどのような行動ができるかについて、ディスカッションで得た成果をもとにアクションプランを作成して発表・共有しました。

カードシステム講習会受講後、システムを導入している参加者と導入に困難を感じている参加者が集まり、それぞれのノウハウや問題点を共有し、課題をクリアするためのヒントを得ることができる時間になりました。

ディスカッションではこんな意見が出ました (アクションプランを作成)

■カードシステムを導入している参加者

- ・地域連携や他科の患者指導にも使用したい。
- ・全ての指導箋のなかから、外来でのセットをつくる。
- ・コントロール入院や腎不全保存期の患者にも使用したい。
- ・指導スケジュールのひな形のパターンを増やし、運用しやすくする。
- ・指導したリーフレットのスキャンを電子カルテへ読み込む方法の構築。

■カードシステム導入に困難を感じている参加者

- ・導入に障害があるのは当たり前のことなので、同僚と相談して進めていく。
- ・興味を持ってくれそうなスタッフに協力を依頼する。
- ・DMチームでカードシステムの勉強会を開催する。
- ・医師を巻き込んで研修を実施したい。
- ・カードシステムを使用した指導のモデルケースを、1例でも2例でもやってみる。

